

整理番号	104	事業名〔地区名〕	市町村合併支援道路整備事業 〔会津若松市 会津若松三島線阿賀川新橋梁工区〕	全体事業費	5,464 百万円	採択年度	H20	完成目標年度*	H33	担当部(局)課名	土木部 道路整備課
------	-----	----------	--	-------	--------------	------	-----	---------	-----	----------	-----------

※完成目標年度は、標準的な工程を想定して設定しているが、毎年度の予算は担保されたものではなく、用地取得状況や施工上の条件変化等、不確定な要素があるため、確定したものではない。

評価対象理由	事業採択時(平成20年度)から10年経過	前回評価時の対応方針	委員会からの提言: - 、付帯意見等: - 、県の対応方針: -
--------	----------------------	------------	----------------------------------

1 事業の概要

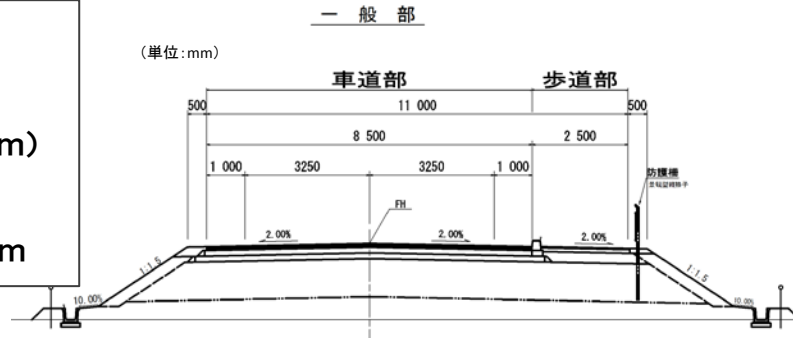
- 県道会津若松三島線(阿賀川新橋梁工区)は、平成16年に合併した旧会津若松市と旧北会津村の連携強化を支援する路線である。
- 現道の蟹川橋等、阿賀川渡河断面の交通混雑を緩和し、市内の円滑な交通を確保する。
- 第3次救急医療機関(会津中央病院)へのアクセス向上を図る。

◆広域図

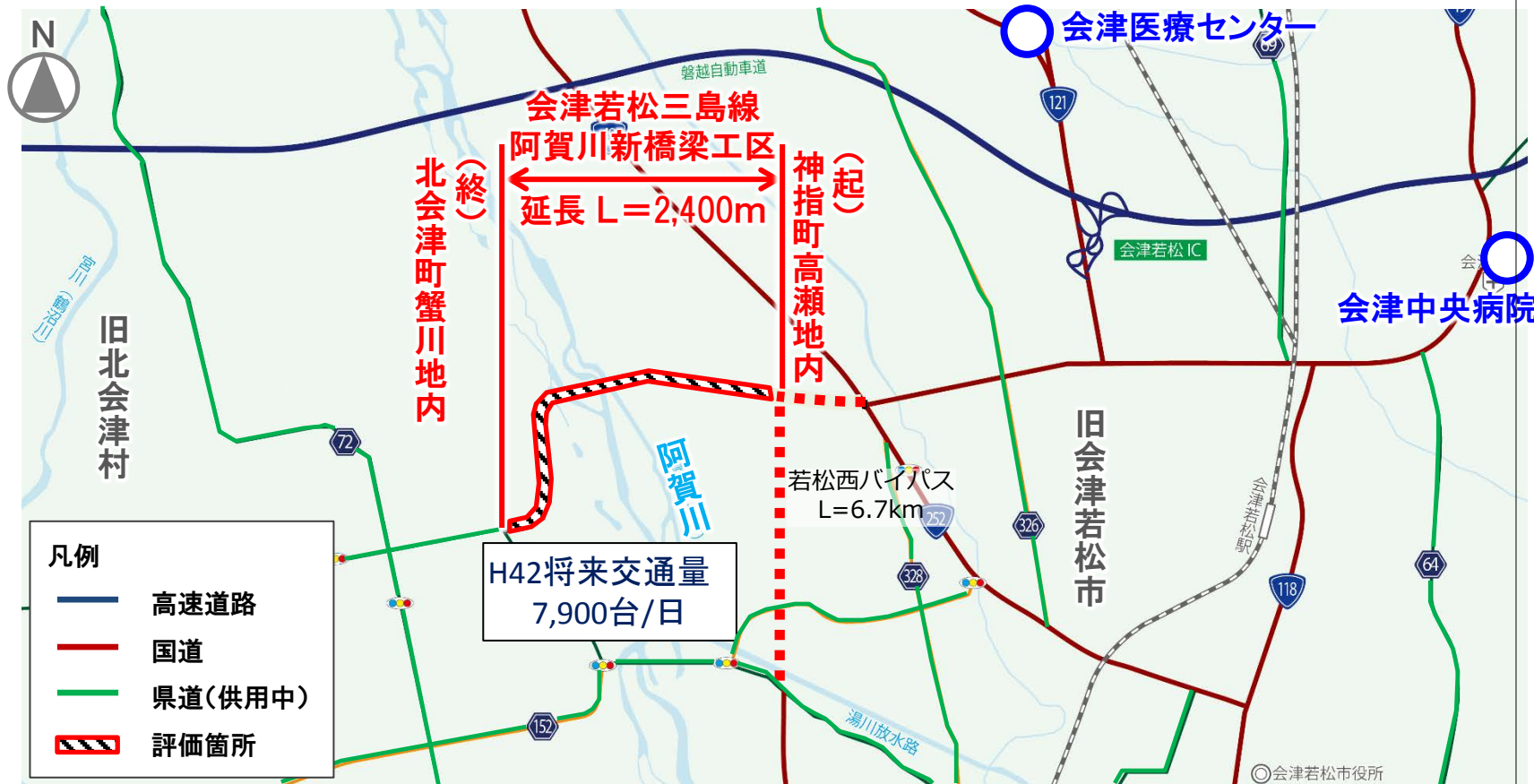


延長 L=2.4 km
幅員 W=6.5(11.0) m
(交差点部:15.0 m)
主要構造物
阿賀野川新橋梁 L=537.0m

◆標準横断面図

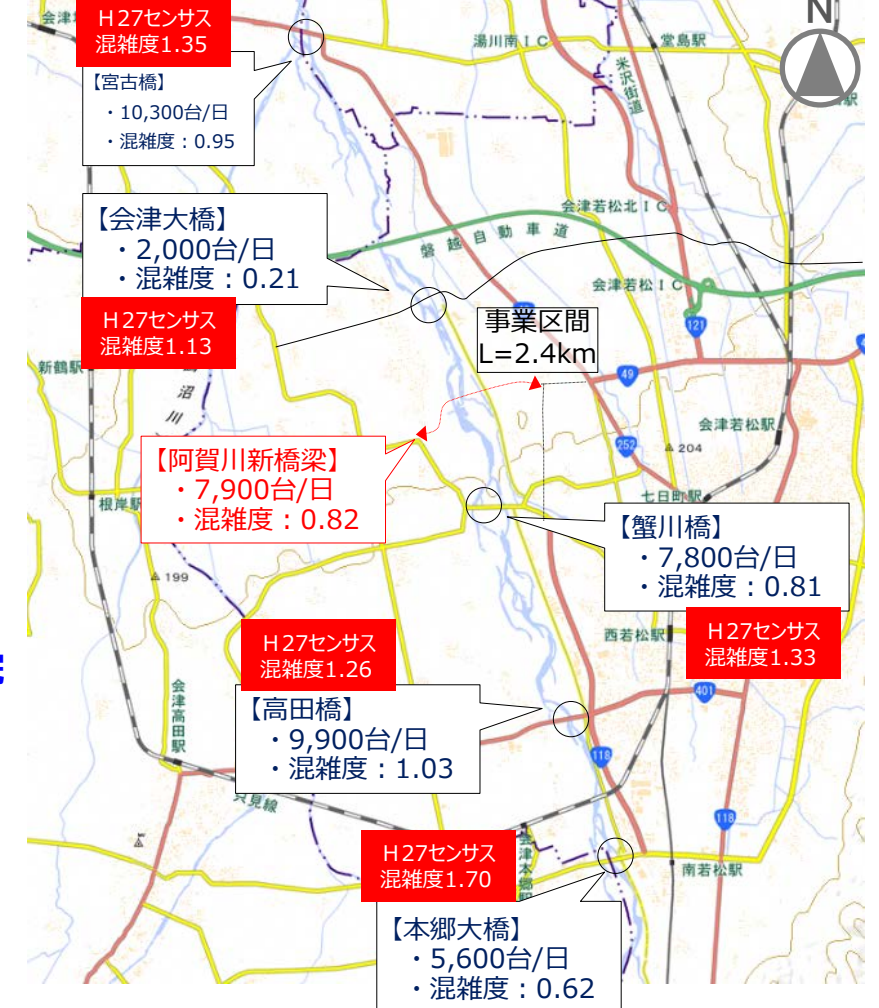


◆周辺図



整備効果

▼対象道路整備時の各橋梁の交通量と混雑度



新橋梁整備により断面混雑度が大幅に改善

【断面交通量(6橋梁)】
・43,500台/日
・混雑度:0.74

2 事業の進捗状況等

評価基準 A:特に問題なし、B:問題あるが解決の見込みあり、C:問題があり解決が難しい

(百万円)

全体事業費		事業 執行済額	年度別執行額			30年度見込
前回	今回 (前回差)		~27年度	28年度	29年度	
—	5,464 (—)	4,281	3,378	811	92	40

(1)現状及び見通し [評価(A)・B・C]

- 平成29年度までに橋梁を完了。
- 平成30年度は、排水構造物工、物件調査を実施予定。
- 計画ルートに合意を得られていない地区があることから、今後も丁寧な説明に努める。
- 事業区間内における希少野生動物にも十分配慮。
- 平成33年度の完成を目指す。

(2)期待される効果 [評価(A)・B・C]

- 平成16年に合併した旧会津若松市と旧北会津村の連携を強化する。
- 現道の蟹川橋等、阿賀川渡河断面の交通混雑の緩和により市街地外縁の交通円滑化を図る。
- 第3次救急医療機関(会津中央病院)へのアクセス向上を図る。

(3)事業を巡る社会経済情勢の現状・変化、地元住民等の意向 [評価(A)・B・C]

- 現道の蟹川橋は老朽化が著しく幅員狭小であり、特に冬期において慢性的な交通渋滞が生じているため、早期完成が求められている。
- 平成29年11月に阿賀川新橋梁建設促進期成同盟会より早期完成について要望されている。
- 「東日本大震災による被害を受けた合併市町村に係る地方債の特例に関する法律の一部を改正する法律(平成24年法律第36号)」に基づき、平成26年度に事業期間を見直した。

(4)評価指標の状況 [評価(A)・B・C]

評価指標	採択時(H20)	完成時(H33)	備考
阿賀側断面の幅員狭小区間(m)	574m	解消	蟹川橋区間

【その他参考となる数値】

- 現況交通量(H22) 12,630台/日
- 将来交通量(H42) 7,900台/日

(5)費用対効果の状況・要因の変化 [評価(A)・B・C]

$$B/C = \frac{78.4+10.2+2.6}{55.9+1.5} = 1.59 \text{ (前回値 —)}$$

- [B]道路事業における総便益(走行時間短縮便益+走行経費減少便益+交通事故減少便益の合計)
- [C]道路事業に要する総費用(道路整備に要する事業費+道路維持管理に要する費用の合計)

【参考値】

$$B/C = \frac{78.4+10.2+2.6+39.6^{*1}}{55.9+1.5} \times 1.642^{*2} = 3.74$$

- *1: 追加便益:39.6 億円(迂回の解消効果、冬期交通の効果、CO2排出削減効果、救命救急へのアクセス向上効果)
- *2: 地域修正係数:1.642(会津)

(6)コスト削減の取組・代替案の検討状況 [評価(A)・B・C]

- 盛土について、他工区との流用調整により土砂を有効利用。
- 架橋環境と将来維持管理費用を含めた費用比較により、耐候性鋼材を採用。
- 代替案については、主要構造物を概成しており、ルート変更の可能性はない。

3 評価

(1)県の対応方針案	(2)理由
事業継続	平成16年に合併した旧会津若松市と旧北会津村の連携強化にあたっては、蟹川橋等の阿賀川渡河橋梁の交通混雑が課題となっているため、新たに阿賀川を渡河する道路の整備を行っている。また、事業採択時と同様の効果発現が見込まれることから、現計画のとおり整備を進める必要がある。